

## エチケット一覧

### 盲導犬および視覚障害者との接し方のヒント

#### 視覚障害者に会ったとき

- 他の人と同様に接して下さい。私も皆と同じことをしていますが、たまに異なるテクニクを使用することがあるだけです。
- 普通の声で話して下さい。目が見えないだけで、耳が悪いわけではありません。
- 付き添いの人ではなく、私に直接話しかけて下さい。視力が劣るからといって、知性が劣るわけではありません。
- 部屋に入るときは、自分が誰かを名乗って下さい。部屋をでる時には、必ずその旨を伝えて下さい。私に話しかけるときは、まず名前を呼んでください。
- 私を慣れない場所にひとりにする場合は、「左側にドアがあります。」というように、方向の手がかりになるヒントを教えてください。
- 「見える」「見る」または「テレビを見る」等、日常でよく使われる言葉や表現に敏感になる必要はありません。
- 助けが必要に見えるときは、確認して下さい。
- 補助が必要であれば、その旨を伝えます。もし危険な状況が迫っている場合には、落ちついた、はっきりした声で注意を促して下さい。
- 私を引っ張ったり、無理に体を誘導しようとするのは、ごちないだけでなく、混乱を招きますので、やめて下さい。腕をつかむのは避けてください。また、私の盲導犬のハーネスに触らないで下さい。
- 「誘導しましょうか？」と聞いてください。腕を差し出すのは、盲目の人を誘導するのに効果的でスマートな方法です。盲目の人を誘導する経験が浅いことを恐れずに伝え、改善のアドバイスをもらうようにして下さい。（椅子やドア等）物をコツコツと叩いたり、軽く音を立てるといった聴覚の手がかりを使うテクニクは、物の位置を示すのに効果的です。「ここに椅子がありますよ。」と言いながら、コツコツと叩いてくれれば、素早く位置を把握することができます。
- 思いやりを示して下さい。
- 服に点やシミがあるのに気づいたら、こっそりと教えて下さい（あなたが他人にそうして欲しいと思うのと同じです）。

- 道順は、わかりやすく教えてください。「道を渡って」、「次の角を左に」といったフレーズの方が、「向こう側」のような漠然とした表現よりも役立ちます。
- レストランでは、空席までわかり易く案内してください。メニューを読み上げるという申し出はありがたいのですが、自分の分をオーダーしたくないだろうと勝手に決め付けるのはよくありません。
- テーブルの上にある物を、説明して下さい。ケチャップの瓶、水のグラス、塩と胡椒の瓶、等。アイテムの位置は、時計の方角を使って説明することができます。「コーヒーは3時の方向にあります。」「砂糖は1時の方向にあります。」
- ドアは、完全に開けるか、完全に閉めるようにして下さい。半分開いたままのドアや戸棚は危険です。大抵の場合、慣れた環境では特に、動く椅子や他の物体が回りがあると、便利というより混乱を招く結果になります。
- 私の目について質問するときは、慎重にお願いします。個人的なことでするので、きちんと一線を引いて下さい。

仕事中の盲導犬チームに会ったときには：

- 盲導犬をなでたくなる気持ちはわかりますが、この犬は目の不自由な人を誘導する任務があるということを忘れないでください。犬がその任務から気をそらされるようなことがあってはいけません。人の安全が盲導犬の注意力と集中力にかかっているのです。
- 盲導犬を撫でてもいいかを、尋ねるのは大丈夫です。大抵の人は、時間さえあれば喜んで自分の犬を見せてくれるものです。
- 犬は目の不自由なパートナーに対して重要な責任を負っていますので、過剰に興奮させないようにすることが大切です。
- 盲導犬にえさや、気をそらす原因になるものを与えてはいけません。盲導犬は、最善のコンディションを保てるように、決められた時間に特定のえさが与えられています。定期的なスケジュールから少しでもずれると、えさの時間やトイレの時間が乱れ、飼い主に大迷惑がかかることとなります。盲導犬は、レストランへ行っても食べ物をねだることのないように、食べ物を与えられても拒否するよう訓練されています。盲導犬に食べ物を与えると、この訓練の効果が弱くなってしまいます。
- 盲導犬は信号を理解することはできませんが、飼い主が安全に道路を渡れるよう誘導する役目があります。盲導犬に呼びかけたり、わざと道を防いだりすることは、犬の仕事の集中力を乱すことになり、チームにとって危険です。
- エンジンの音が以前に比べ静かになったことや、交通量の増加により、盲導犬の飼い主が交通の流れを聞き分けることが難しくなりました。道路を安全に渡れると知らせようとして、クラクションを鳴らしたり、車から呼びかけたりしないようにして下さい。注意力が

それ、混乱する原因になります。赤信号で右折する際には、横断歩道の歩行者に特に注意してください。

- 盲導犬は、いつも仕事ばかりしていて遊ばないわけではありません。ハーネスを装着していないときは、普通のペットと同じように扱われます。ただし、安全のため、盲導犬は特定のおもちゃでしか遊ぶことを許されません。飼い主の許可を得ずにおもちゃを与えないようにして下さい。
- 状況によっては、盲導犬に頼るのが適切でない場合もあります。その場合、飼い主はあなたの腕のひじからすぐ上の辺りにつかまり、犬を後ろからついてこさせるかもしれません。犬をあなたの後ろに歩かせるのを好む人もいるでしょう。このような場合には、曲がるときの指示は犬ではなく、必ず飼い主に向かって話しかけるようにして下さい。
- 訓練の継続のため、盲導犬が間違いを犯した場合にはしつけを行う必要があります。しつけは通常、口で叱り首輪をつかんで行い、犬が集中力を取り戻して、正しく命令を実行したら褒めるという方法をとります。盲導犬の飼い主は、自分の犬の正しいしつけ方の指導を受けています。
- アメリカ障害者法やカナダの視覚障害者権利法を含むアクセス法により、盲導犬は、飼い主に付き添い、タクシー、バス、レストラン、劇場、店、学校、ホテル、アパート、およびオフィスビル等の一般の公共の場に入場することが認められています。

詳細は、下記までご連絡下さい。

**(800) 295-4050**

**[www.guidedogs.com](http://www.guidedogs.com)**